

平成28年度京都府立峰山高等学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動を通して、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートはほとんどの項目で昨年度の肯定率を上回り、各目標値もほぼ達成した。生徒対象「入学して良かった」、保護者対象「入学させて良かった」はそれぞれ95%、97%という高い肯定的回答を得た。 ・各種コンテストへは約1300名、「科学の教室」へは145名、高大連携事業へは149名といずれも昨年度を上回る多くの生徒が参加した。 ・グローバルネットワーク京都交流会を始め、府立高校特色化事業を活用した各種講演会、国際交流会等様々な取組を通して国際理解が深まった。 ・遅刻者数、自主学習時間、授業満足度のいずれも目標値を達成した。 ・毎朝の教職員による積極的な校門指導、校外指導を通して、生徒の規範意識が向上すると共に、地域からの信頼も高まった。 ・学年部と生徒指導部が密に連携し、問題事象の未然防止につなげた。 ・いじめ事象へは早期発見、早期対応で迅速に解決することができた。 ・依然と厳しい就職状況の中、早期に就職内定率100%を達成した。 ・国公立4大へは推薦10名を含め、延べ34名が合格した。 ・日々の継続的取組を通して「美化清掃」への意識が向上した。 ・積極的なスクールカウンセラーの活用と情報共有により個に応じた支援が進んだ。 ・大会議室活用の工夫等により、積極的に情報視聴覚機器を活用した。 ・峰高日より、お知らせメール、各種たより等、様々な広報活動を通して保護者、地域と連携し信頼を深めた。 ・夏季面談はPTA共催のもと、95%の保護者と面談を行った。 ・京都産業21、ポリテクカレッジ京都などの地元関連企業等と連携し、ハイレベルな技能に触れることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討 ・地域活動100への参加啓発 ・常習的遅刻者への効果的指導 ・学力中間層生徒の学力向上に向けた具体的手立て ・公開授業のより効果的在り方の検討 ・校外の継続的な服装、頭髪及び交通マナーの指導 ・部活動加入率の向上 ・学年部、教務部、各教科担当と連携強化した進路指導 ・教職員、生徒の美化清掃へのさらなる意識改革 ・図書館の貸出冊数増加に向けた効果的取組 ・メール登録者数の増加とタイムリーな情報発信 ・地元企業、校内関係分掌との連携強化による特色ある専門学科づくり 	<ol style="list-style-type: none"> 1 郷土愛の醸成と、高い理想を掲げて社会に貢献できる人材の育成 2 授業と課外活動との両立及び希望進路の実現 3 家庭や地域との連携

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
府立高校特色化事業「グローバルネットワーク京都」	アカデミックミネ・プロジェクトによる学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各種コンテストへの参加や検定試験、「科学の教室」への参加、高大連携事業への参加を促す。 【コンテスト参加、検定受検 延べ1100名以上】 【「科学の教室」参加 延べ150名以上】 【高大連携事業参加 延べ150名以上】 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> コンテスト等1004名、「科学の教室」154名、高大連携事業への参加195名など概ね目標値を達成した。 2月に6名の外国人を招いて国際交流会を実施した。 地域活動参加事業数は昨年より増加し、98件でほぼ目標値を達成した。 生徒は自分の興味・関心に合わせて選択・参加できているが、地域活動への一層の参加が課題である。
	コミュニケーション・プロジェクトによるコミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生や留学生、地域の方々等と交流をする。 	B	B	
	コミュニティ・プロジェクトによる社会貢献意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「地域活動100」と題し、生徒が地域で学ぶ機会を積極的に設け、各方面に参加を促す。 【地域活動参加事業数 100以上】 	B	B	
学習指導	主体的学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教務部、学年部、生徒指導部等が連携し、保護者の協力を得て始業5分前登校を徹底させる。 【1日平均遅刻者数 6.5人以内】 【各学期10回以上遅刻者 延べ8名以内】 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 1日平均遅刻者数4.5人、10回以上の遅刻者5名と目標値を達成しているが、2学期以降の遅刻者数の増加が課題である。 自主学習時間2時間10分で昨年より2時間以上の学習時間が定着してきているが、学年・クラスによりばらつきがある。 「授業に満足」は平均3.3～3.4でここ数年ほぼ横ばい状態で、多くの生徒が学習に積極的に向かう傾向が見られる。
	学力中間層生徒の学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 教科、学年部、教務部、進路指導部の連携により、生徒の学力を把握し、その伸長を図る。 【自主学習時間調査 1日2時間以上】 	A	A	
	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 教科と連携し、効果的公開授業の在り方を探る。 【〈授業アンケート〉「授業に満足」全体平均3.2/4.0以上】 	B	B	
生徒指導	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 定期検査と毎朝の校門指導により、服装、頭髪指導を徹底し、あいさつの励行を促す。 【身だしなみ向上週間のチェック対象生徒 40名以内】 学年部と生徒指導部との連携を密にし、いじめを含む問題事象の未然防止に努める。 【学年会での情報交換 年間8回以上】 	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 「身だしなみ向上週間チェック生徒」は46名で目標値を下回っているが、毎朝平均12名の教員による校門指導や普段からの声かけ、生徒会を中心とした規範意識を向上させる取組などにより全体的に規律ある学校生活が維持できている。 各学年の学年会に生徒指導部から6～7回出席し、情報交換を行った。 新入生の部活動加入率は4月時点で84%であったが74%まで低下しており、2年生を含めても定着率が課題である。19時30分完全下
	特別活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率を向上させるとともに、学習と部活動との両立ができる環境を作る。 【新入生部活動加入率 85%以上】 【19時30分完全下校の徹底】 ボランティア活動参加者の増加に向け、情報収集と広報活動を充実させる。 【ボランティア活動参加 延べ150名以上】 	B	A	

						校は改善されたが徹底まではいかず、学習と部活動の両立について生徒・教職員とも意識の向上を図る必要がある。 ・ボランティア活動は314名の参加があり、生徒の人的成長と進路実現に繋がっているが、校内の担当部署の整理が必要である。
進路指導	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部、教務部、各教科担当との連携を強化し、生徒個々の学力、希望の実態に即した指導と取組を行う。 【国公立大学合格者 延べ40名以上】 【就職内定率 100%】 【進路検討会 教科担当者会議 年間5回以上】 【進路担任面談 年間3回以上】 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者は推薦・AO入試14名を含め延べ52名、就職希望者はきめ細かな指導が実を結び、公務員5名を含め、年内に内定率100%を達成した。進路検討会は5回、進路担任面談は2回以上実施した。面談や個別指導等、生徒の実態に即した対応が就職・進学とも順調な進路結果に繋がっている。 ・教科、分掌との情報共有等、さらなる連携の強化が必要である。
人権教育	人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動を通じて生徒の自尊感情を高め、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。 【〈生徒アンケート〉「生命や人権を尊重する指導が適切」 肯定率90%以上】 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権を尊重する指導」の肯定率は91%で概ね良好であるが、人権学習の機会だけでなく、日常の指導の中で自尊感情を高め、他人を尊重する指導を継続的に行う必要がある。
健康・安全指導	教職員及び生徒の美化清掃へのさらなる意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃点検等生徒の委員会活動を活性化させる。 【〈生徒アンケート〉「美化、清掃が行き届いた教育環境」 肯定率85%以上】 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「美化、清掃」の肯定率は87%で、生徒による清掃点検は生徒の励みになっているが、一部清掃の行き届かない箇所が見られる。 ・教育相談会議は10回実施し、個々の生徒の情報共有と丁寧な対応ができていますが、教職員に対する特別支援等の研修の充実が必要である。
	教育相談関係生徒の実態把握と適切な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談会議を適切に開催し、情報交換や支援の方法について協議する。 【定例会議 10回以上】 	B	B		
図書・情報活動	図書館利用の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を活用した教科や進路等の指導を工夫する。 【貸出数 一人年間3冊以上】 【利用者実数 350名以上】 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数3.1冊、利用者実数343人で昨年度よりも増加した。図書に親しむ活動が工夫され、貸出数等の増加に繋がっている。

	校内LANの適切な運用	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会等を通じて情報セキュリティー意識を高め、情報機器と情報を適切に取り扱う。 【校内LANの重大事象の発生 0件】 	A	A	<p>授業での活用や他の分掌との連携をさらに図ることが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内LANの重大事象の発生は0件であったが、セキュリティーに関する教職員の更なる意識向上は必要である。
家庭・地域連携	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや「峰高だより」において生徒の活動を広く広報できるよう、情報共有を強化し、幅広くタイムリーに発信する。 【〈保護者アンケート〉「広報活動が充実」肯定率80%以上】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「広報活動が充実」の肯定率は82%であった。生徒の活躍を紹介する広報活動は質、量ともに充実しているが、よりタイムリーに情報発信できる体制整備が必要である。 ・三者面談参加率99%、PTA総会参加者100名、研修会参加者89名、峰高祭文化の部来場者410名、体育の部来場者260名など多く保護者が参加され、学校への関心の高さが感じられる。 ・「学校との連携」の肯定率は77%、メール配信は51件であった。
	地域・保護者・PTAとの連携推進	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談、PTA総会、PTA事業、学校祭等への積極的な参加を促す。 ・お知らせメールを活用し、学校の様子をタイムリーに保護者に伝える。 【〈保護者アンケート〉「家庭と担任や学校との連携」肯定率75%以上】 	A	A	
特色ある専門学科	地元産業界との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ受入企業を増加させ、生徒の進路希望や適性が反映できるようにする。 【17社以上】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップはデザイン系統での実施や新規受入企業の増加などにより、26社で実施できた。 ・関係進路は国公立大学を含め進学8名、就職1名であった。日々の教育活動を通してものづくりへの関心を喚起するとともに社会人講師の活用など外部機関とも連携し、関係進路に進む生徒の増加を図ることが課題である。 ・事前事後指導時間はインターンシップ2時間、企業見学4時間で行った。地元求人は6社で地元企業や関係団体との関係は良好に推移したが、より一層の連携強化が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、企業見学等により職業意識を向上させる。 【関係進路 15人以上】 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、就職等に対する指導を充実させ、地域に根差した人材の育成に繋げる。 【事前・事後指導5時間以上】 【地元求人5社以上】 	A	A	

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の取組がしっかり行われており、概ね良好な学校運営が行われている。 ・授業は全体を通して落ち着いており、生徒は意欲的に取り組んでいる。 ・普通科は進学目標があり、授業も高度であったが、意見を発表したり、討論したりする力が必要である。 ・高校生活に多様な希望を持った生徒がいるので、個々の生徒に対応できるような環境整備をお願いしたい。 ・学校経営計画はここ数年の経過や新規の項目がわかるような表記方法になると、学校の動きがわかるようになるのではないかと。 ・学校評価アンケートの中で、一人一人の生徒にきめ細かく対応することに対する肯定率がやや低いので、その原因を分析し、改善に努めて欲しい。 ・地域活動100の実績は昨年度と比較して伸びているが、ボランティア活動の意義を生徒に一層広め、地域とのつながりの重要性を理解させることが重要である。 ・社会生活の中では自尊感情や自己肯定感を持っていることが必要なので、各種の取組の中でその育成を図って欲しい。 ・校内美化に力を入れており、清掃状況は良好である。ただ、日頃清掃が行き届きにくい部分の美化にも配慮されるとさらに良くなる。 ・各種行事等への保護者の参加が多く、学校への関心の高さが窺われる。 ・情報通信機器の活用は現代の社会生活の中で必須である。高校時代に活用方法とともにセキュリティや情報モラル等の学習もしっかりと積み重ねておく必要がある。
----------------------------------	--

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【全体】 <ul style="list-style-type: none"> ①各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化 ②目標値の検討 【特色化事業】 <ul style="list-style-type: none"> ③生徒への周知方法の工夫と地域活動100への参加啓発 ④卒業生・地域の方々をはじめとする多様な人材の活用 【学習指導】 <ul style="list-style-type: none"> ⑤年度後半の遅刻増加傾向に対する対応 ⑥学力中間層生徒の学力向上に向けた具体的方策 ⑦主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善に向けた組織的取組 【生徒指導】 <ul style="list-style-type: none"> ⑧校内外の規範意識の更なる向上 ⑨部活動加入率と定着率の向上 ⑩学習との両立に向けた部活動の更なる工夫 【進路指導】 <ul style="list-style-type: none"> ⑪教務部・学年部・各教科等との更なる連携 【人権教育】 <ul style="list-style-type: none"> ⑫日常の指導における自尊感情の涵養 【健康・安全指導】 <ul style="list-style-type: none"> ⑬美化意識の更なる向上 【図書・情報活動】 <ul style="list-style-type: none"> ⑭図書館の多角的な利用の推進 ⑮教職員の情報機器に対するセキュリティ意識の向上 【家庭・地域連携】 <ul style="list-style-type: none"> ⑯タイムリーな情報発信に向けた体制整備 ⑰家庭・地域との更なる連携 ⑱アカデミックインターンシップの充実 【特色ある専門学科】 <ul style="list-style-type: none"> ⑲産業工学科インターンシップや課題研究の更なる充実 ⑳地元企業・諸団体との連携強化
----------------------	--